

CASE STUDY

業種：アプリケーションサービスプロバイダ

VIPRIONの導入により高いレベルの信頼性と処理能力を得た外為オンライン

大きな伸びを示す外国為替取引オンラインシステムを始め、様々なASPを開発、運営する株式会社アイアンドエーエス。中でも大きなウェイトを占めるのが、13万を超える口座を持ち高い人気を誇るFXサイト「外為オンライン」だ。24時間止まることなく、スムーズなサービス提供が求められるネットワークの中核には、F5ネットワークスのVIPRIONが採用されている。



株式会社アイアンドエーエス
代表取締役社長
横尾 和也 氏

MISSION

- 1万セッションを超える同時接続を処理できる高い処理能力の実現
- 万一の障害時にもダウンタイムを生じない高い信頼性の確保
- 今後の拡張に容易に応えられるサービス基盤の整備

SOLUTION

- ブレード4枚を同時稼働可能なシャーシ構造により高い処理能力を実現
- CMP機能によりブレードの障害、交換時にもシステム停止は不要
- ダウンタイムなしに追加できるブレード構成による高いスケーラビリティ



株式会社アイアンドエーエス
システム運営部
取締役部長
加藤 仁志 氏

企業プロフィール

株式会社アイアンドエーエス

ASP事業をメインに展開する開発企業。提供サービスは外国為替取引オンラインシステムをはじめ、青果仲卸業向け販売管理システムといった業界に特化したものから、会計システム、人事システムなど全業種で使えるものまで幅広い。ドメインの取得代行やホームページ作成など、サイトの構築に必要な周辺サービスも含め、トータルに提供している。

〒100-6224 東京都千代田区丸の内1-11-1
パシフィックセンチュリープレイス丸の内24F
URL : <http://www.i-asp.ne.jp/>

事例協力

あなたの為の、外為を。


ブレードの追加で処理能力を拡大できるVIPRIONの導入により 拡張のためにアップグレードを重ねてきた歴史に終止符

高い信頼性が求められる システムを支え続けたBIG-IP

FXは、少ない元金で始められる身近な金融商品として人気を博している。数あるFXサイトの中でも高い人気を誇るのが、外為オンラインだ。2007年度に年間取引高ナンバーワン*に輝き、口座数は13万を超える。株式会社アイアンドエーエスの代表取締役社長 横尾 和也氏は、FXサイトにとって大切なのは使いやすいインターフェイスとシステムの信頼性だと語る。

「FXの取引では一瞬の操作ミスが大きな影響を及ぼす可能性があるため、直感的に操作できるインターフェイスづくりを心掛けています。また、株式取引などとは違い24時間取引が行われるため、ネットワークの信頼性も非常に重要です」

横尾社長の言葉の通り、同社はFXサイトスタート当初から高い信頼性と安定性を念頭に置いたネットワークづくりを行ってきた。その中核となるトラフィック管理装置として採用され続けてきたのが、F5ネットワークス（以下、F5）のBIG-IPシリーズだ。当初BIG-IP 1500を導入して構築したネットワークだが、サービスの成長に伴い上位のBIG-IPへとアップグレードされてきた。FXサイトでは為替情報の参照が常時行なわれるため、ショートパケットが多く、ユーザ増加がBIG-IPのCPU負荷に大きく影響する。短期間にBIG-IP 1500から6400、8400へとアップグレードを繰り返してきた同社のネットワークの歴史は、そのまま事業規模拡大の歴史とも言える。しかし頻繁なアップグレードを繰り返す中でも、他ベンダーの製品への移行は一度も検討されなかったとASP事業部の加藤 仁志氏は言う。

「BIG-IPは私が知る限り、最も信頼できる製品だと思っています。実際、これまでいくつもの

BIG-IPを導入してきましたが、その信頼が裏切られたことはありません」

信頼性と投資対効果 双方を満足させたVIPRION

成長を続ける同社のネットワークがひとつの転機を迎えたのは、2008年冬のことだった。当時の最上位機種であったBIG-IP 8400をもってしてもパフォーマンスに限界が見え始めたのだ。BIG-IP 8400を複数台設置並列処理を行なうか、ブレード搭載型シャーシを採用し、最大でBIG-IP 8400の4倍近い性能を発揮できるVIPRIONへ移行するか、いわばスケールアップかスケールアウトかという選択を迫られることになった。その当時を振り返り、加藤氏は次のように語る。

「スケールアウトした場合、ハードウェアが多くなるということを懸念しました。ハードウェアが増えれば障害ポイントが増え、ネットワークに障害が発生する確率は高まります。とにかく一瞬でもダウンタイムを作りたくないという思いから、ハードウェアの台数を増やさずに処理能力を向上できるVIPRIONへのスケールアップを選択しました。ハードウェア増加は管理負荷の増加にもつながりますから、それを避ける意味もありました」

また、投資効果の面でVIPRIONに大きな魅力も感じたという。それまでのBIG-IPはActive-Standby構成で使われていた。VIPRIONの場合、装着されたブレードを普段からすべて使用しつつ、対障害性を高めることができるので、投資対効果の高い障害対策を実現できる。これはVIPRIONに備わるCMP（クラスタ・マルチプロセッシング）機能がもたらす恩恵だ。CMP機能によりシャーシに装着したブレード上

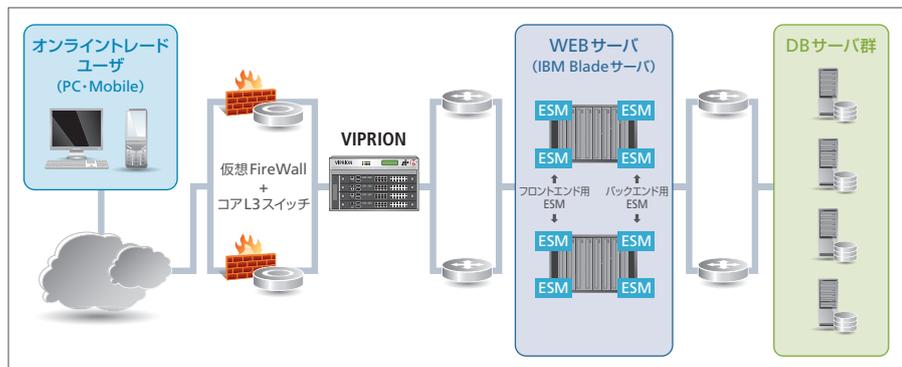
のCPUリソースは仮想化され、それぞれのアプリケーションに対してリアルタイムに最適化される。万一いずれかのブレードに障害が発生した場合には他のブレードがセッションを引き継ぎ、処理を継続する。ブレードの交換や追加の際にもシームレスにリソースに組込まれるので、障害時だけではなく、処理能力拡張の際にもシステム停止の必要はない。

高いスケーラビリティを得て さらなる高度化へと進む

アイアンドエーエスが導入したVIPRIONにはVIPRIONパフォーマンスブレード100と呼ばれるブレードが2枚装着されている。配下に50台以上のサーバが稼働し、同時接続数が1万を超える状態でもCPU使用率は20～30%で安定し、処理能力の高さを実感しているという。しかも今後はブレードの追加だけで、ダウンタイムなく拡張できる。この柔軟性がVIPRIONの大きな魅力だと、加藤氏は語る。

「これまではCPU使用率が高くなるたびに、対策を考えてきました。ブレードを追加するだけで拡張できるのは、とても安心感があります」

また今後についてうかがったところ、横尾社長はさらなるネットワークの高度化に向けて検証を進めているところだと明かしてくれた。F5とのパートナーシップにより、アイアンドエーエスのネットワークは今後も進化していきそうだ。



※出典：矢野経済研究所「2007年4月～2008年3月FX年間取引高調査」より

事例協力パートナー：

エス・アンド・アイ株式会社
〒103-8507 東京都中央区日本橋浜町3-42-3
住友不動産浜町ビル
TEL 03-5623-7888
URL <http://sandi.jp/>



F5ネットワークスジャパン株式会社

東京本社
〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ19階
TEL 03-5114-3210 FAX 03-5114-3201

www.f5networks.co.jp/fc/

西日本本社

〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー19階
TEL 06-6225-1250 FAX 06-6225-1111